

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県名【滋賀県】

学校名【滋賀県立新旭養護学校】

1 実践テーマ	【V】
2 実施対象者	滋賀県立新旭養護学校高等部1組と高島市新旭町太田区民
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（太田区民との交流会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	【養護学校】 ①卓球バレーを楽しむ。 ②卓球バレーを通して、太田区民と楽しく交流する。 【太田区民】 ①卓球バレーを楽しむ。 ②卓球バレーを通して、生徒と楽しく交流し、地域の学校を理解し知る。
5 取組内容	●9月～10月 ・実践を通して、卓球バレーのルール確認。 ・競技に親しみ楽しむ。 ●11月5日（月） ・太田区民7名の方と高等部1組9名との交流会
6 主な成果	①パスを繋げる時に声を掛け合うこともあり、コミュニケーション向上のきっかけとなった。 ②安全に手軽に取り組める競技であるが、得点を競うゲームルールでもあるので、競技が白熱し、たいへん盛りあがった。 ③楽しい雰囲気づくりが図れ、生徒と親しくなり、少しでも生徒理解や学校を知ってもらえる機会となった。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	①コミュニケーションと理解が図りやすいように、太田地区の方と生徒が混ざったグループ形式で競技を行った。 ②パスを何回繋いでも可とし、誰もが競技に参加しやすいルールにした。 ③肢体障害がある生徒のテーブルには垂木を設置し、ピン球に触れやすいようにした。 ④4チーム総当たり形式に試合を行い、全員が触れ合える機会を作った。
8主な課題等	本来なら、年に1回だけの交流ではなく複数回の取り組みで交流を深めていくねらいが必要と感じる。しかし、複数回実施する為の日程調整が昨今難しくなってきているところが課題である。
9来年度以降 の実施予定	地区の方との交流は、何らかの形で継続していくが卓球バレーの内容で進めていくかは未定である。ただし、卓球バレーについては児童・生徒への活動機会をつくり、障害者スポーツを楽しく行っていく機会は作っていきたいと考えている。



自己紹介 (名前・好きな食べ物)



チーム分け
(各チームで名前を考えました)



最初は練習タイム



いよいよ本番、白熱しました。